

◆ 大串 章 選

天^{てん}瓜^か粉^{ふん}昭和も遠くなりけり

(東京都葛飾区) 御堂 千里

遺骨無き父の無念や墓洗ふ

(福島県伊達市) 佐藤 茂

方言が方言を呼ぶ帰省かな

(横浜市) 斉藤 博道

父在らば在らばと何時も終戦日

(印西市) 五十嵐 栄子

遙^{はる}か来て遠流の島の西日浴ぶ

(浜松市) 久野 茂樹

大花火天を太鼓に乱れ打ち

(柏市) 河西 和章

蓮^{はす}開く音を聞かんと耳すます

(野田市) 塩野谷 慎吾

公園も旅の気分や木下闇

(西東京市) 濱田 朝子

滝^{たき}の音樹^き々のざわめき掻き消して

(京都市) 室 達朗

金魚鉢静かに時を刻みけり

(鹿児島市) 川上 哲博

【評】第1句。「昭和も」の「も」が効いている。中村草田男の名作「降る雪や明治は遠くなりけり」を踏まえて一句誕生。第2句。父上は戦地で戦死されたのだ。残念無念。第3句。帰省の楽しさ懐かしさ。方言同士が互いに呼び合っている。

◆ 高山 れおな 選

隻影のサーファー黄金^{きん}の波に立つ

(東京都練馬区) 吉竹 純

眠れない蟬^{せみ}の鳴き渡る夜風かな

(東京都板橋区) 竹内宗一郎

子は魚に時々戻る水遊び

(相模原市) 井上 裕実

七変化果てて緑に沈みけり

(東京都台東区) 上塚 建次

夕^{ゆふ}焼^{やけ}が牛の目玉に溶けている

(国立市) 加藤 正文

茅^ちの輪見て「どこでもドア」と子^こ等^ら潜る

(いわき市) 岡田 木花

少女らの一気^{いき}ののぼす日^ひ焼^{やけ}止め

(久喜市) 土田耕太郎

なにもなしなんにもなくてあつしなつ

(埼玉県鳩山町) 荻原 久

乾^かぶとき蚯蚓^{みみず}は何を思つたか

(春日井市) 亀山 健人

ビストロのドアのカウベル律の風

(あきる野市) 松宮 明香

【評】吉竹さん。隻影はただ一つの影。豪華なグラビア的なイメージがみごと。竹内さん。「眠れない蟬」という情緒的な捉え方が絶妙に生きている。井上さん。まさに水を得た魚。〈遊ぶ子供の声聞けば、我が身さへこそ揺るがるれ〉の感動。